

クリスマス寒波襲来！27日にかけて日本海側を中心に記録的大雪の恐れ！

平成23年12月23日(金)頃から、日本の上空にはこの冬一番の非常に強い寒気(寒波)が流れ込みます。この影響で、23日(金)から27日(火)頃にかけて、日本付近は強い冬型の気圧配置が続く見込みです。クリスマス頃に強い寒気が流れ込むのは昨年に続き2年連続となりますが、今年は27日頃まで冬型の気圧配置が続くことが特徴で、記録的な大雪となる可能性があります。北海道から東北地方では大雪や暴風を伴う大荒れの天気となる他、新潟から九州にかけての日本海側でも大雪に警戒が必要です。強い季節風が吹く影響で、日ごろ雪が少ない瀬戸内側や四国、東海地方(濃尾平野)などの太平洋側でも雪が降る可能性が高く、早めの帰省や行楽時等の交通機関(道路や鉄道、空の便など)に乱れが出る恐れがあります。

今回の寒波の特徴は、以下の3点です。

1.寒気の規模が、昨年を上回る

昨年(平成22年)もクリスマス頃に強い寒波の襲来があり、福島県の会津地方を中心に記録的な大雪となりました(平成22年12月25日の日降雪量が福島県西会津で64cm、会津若松で94cm)。国道49号で多くの車が長時間にわたり立ち往生するなど、交通機関に大きな影響を及ぼしました。上空1,500m付近の寒気の状態をみると、雪の目安となるマイナス6℃以下の寒気(青色)が、本州の南海上まで南下する見込みで、昨年よりも規模が大きくなる予想です。

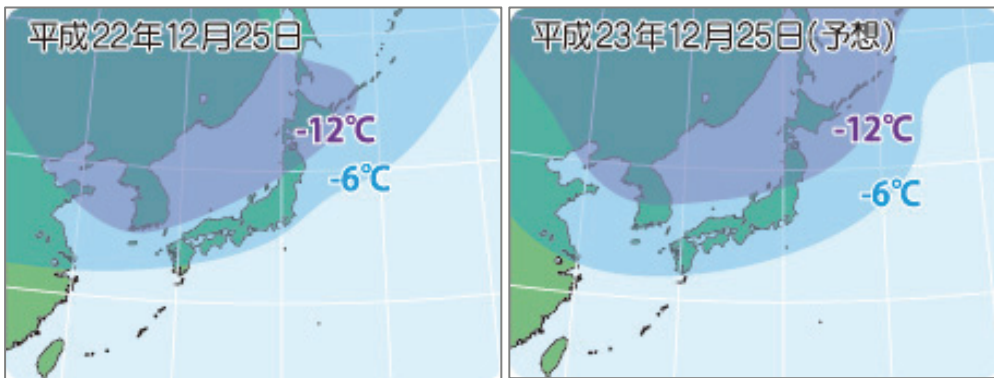


図1 上空1,500m付近の寒気分布(青:マイナス6℃以下の寒気、紫:マイナス12℃以下の寒気)。左が平成22年12月25日9時、右が平成23年12月25日21時(予想)を表している。

2.強い寒気が長く居座る

石川県輪島市上空1,500m付近の気温は、23日から27日頃にかけて、ほぼマイナス10℃以下で経過する見込みです。これは12月としては、全国的に記録的な大雪となった平成17年12月以来(『平成18年豪雪』の始まり)、6年ぶりの強い寒気に相当し、激しい雪や厳しい寒さが長続きすることを表しています。

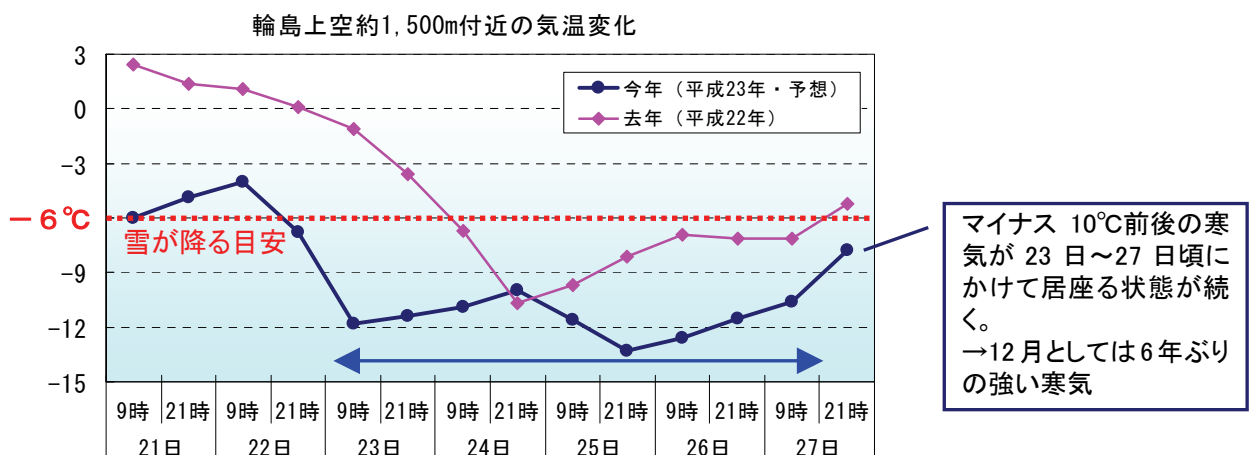


図2 輪島上空1,500m付近の気温変化(去年:ピンク線、今年:青線)
(図中の赤い点線は雪の目安となるマイナス6℃を示す)

3.雪雲が発達しやすい(海からの熱や水蒸気の補給が活発)

強い寒気が大陸から日本へと、海上を吹き渡る際に、日本海から大量の熱や水蒸気を補給されて雪雲が発達しますが、現在の日本海の海面水温は、平年と比較して1~2℃も高くなっています。水温が高い状況で、非常に強い寒気が流れ込むことで、より多くの熱や水蒸気を補給され、雪雲がさらに発達して大雪を降らせる恐れがあります。

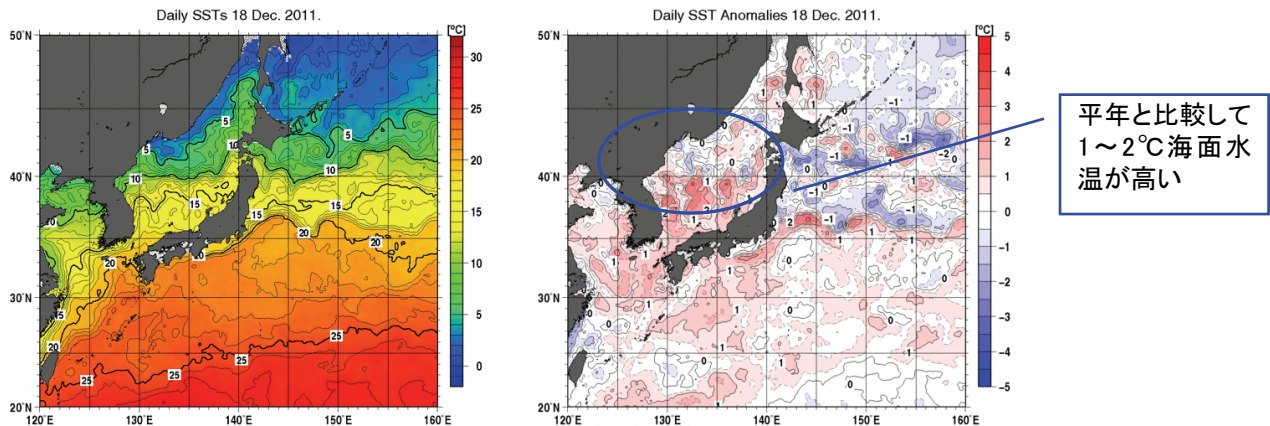


図3 日本近海の海面水温分布(左)と海面水温の平年偏差(右)(平成23年12月18日)

気象庁HP (http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/kaikyoo/daily/sst_jp.html) を参照

12月に強い冬型の気圧配置が継続した過去の類似事例と、その影響を以下に示します。

発生日時	気象概況	影響
平成17年12月22日 ~12月24日	本州上空5,000m付近にマイナス40℃以下の寒気が流入。強い冬型の気圧配置となり大荒れの天気となった。この冬は平成17年12月上旬から平成18年2月にかけて断続的に寒気が流れ込み、「平成18年豪雪」と命名される大雪となった。	・津南町の積雪最大値は289cmに達し、岐阜の長滝の積雪は219cmで年間の最大値を更新した(12月24日)。 ・新潟県の下越地方を中心に停電が発生、一時的に約65万世帯が停電した。暴風雪で塩分を含む氷雪が送電線に付着したり、送電線同士が風で揺れてショートしたことが原因とされる(12月22日~23日)。
平成18年12月27日 ~12月30日	26日に関東に大雨を降らせた低気圧が発達しながら東北の太平洋沿岸を北上。27日から30日にかけて、冬型の気圧配置が続いた。本州上空5,000m付近にマイナス39℃以下の寒気が流入。	・福島県内の東北道や磐越道で、大雪のため通行止めになるなど、交通機関に影響が出た。 ・JR東北新幹線郡山-福島間で規制値の風速30m/sを超えたため、上下線の運転を見合わせ、上下6本が運休し25本に遅れが生じた(12月27日)。 ・愛知県・中部国際空港では、関が原方面からの降雪に伴い、一時的に滑走路が閉鎖した(12月29日)
平成22年12月24日 ~12月27日	23日に低気圧が三陸沖を北上。24日から27日にかけて冬型の気圧配置が継続し、北日本を中心に暴風が吹き荒れた。本州上空5,000m付近にマイナス36℃以下の寒気が流入。	・福島県会津若松の日降雪量は94cmを記録し、1953年の観測開始以来2位の大雪となった(12月25日)。 ・福島県と新潟県を結ぶ国道49号で、約300台の車が立ち往生するなど交通機関に影響が出た(12月25日~26日)。

【防災上の注意点】

警戒期間 : 23日(金)~27日(火)、 **寒気のピーク**: 24日(土)~25日(日)

北海道、東北地方:

大雪や暴風、猛ふぶきによる交通の乱れ。日本海側を中心に記録的な大雪の可能性。海上は大しけ。太平洋側では23日は湿り雪に伴う着雪害の恐れ。

新潟から九州にかけての日本海側:

大雪による交通の乱れ。雪による見通しの悪化。積雪や路面凍結。湿り雪による電線や樹木への着雪。記録的な大雪の可能性。強風、高波にも注意。

※瀬戸内側や四国、東海地方(濃尾平野)、東北地方(仙台平野)等の太平洋側でも雪が降り、積雪となる所がある見込み。

本情報は平成23年12月21日時点の予測資料から作成したものです。詳細については最新の気象情報(日本気象協会の気象情報サイト <http://tenki.jp/>)で確認下さい。

以上